

授業科目名： 共通基礎演習Ⅰ （絵画）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 多田夏雄、繁村 周 担当形態：オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
①知識・理解：様々な形態を観察し、質感、量感、光や空間の捉え方をデッサンを通して学ぶ				
②技能：デッサンを通して鉛筆の使い方を学ぶ				
③態度・意欲：課題に対して積極的に関わることができる				
授業の概要				
様々な形態を観察し、質感、量感、光や空間の捉え方など基礎的な鉛筆によるデッサン力を身に着ける。				
美術の表現を広げるために、写真・コンピュータ等の映像メディアの活用を図る。				
授業計画（1回2コマ）				
第1回：課題説明・画材説明 課題① 鉛筆デッサン （担当：繁村）				
第2回：課題② 鉛筆デッサン （担当：繁村）				
第3回：課題③ 鉛筆デッサン （担当：繁村）				
第4回：課題④ スライド講義（解剖学） （担当：多田）				
第5回：課題⑤「素描論と白色浮出」スライド講義・実演・実践 （担当：多田）				
第6回：課題⑥ 鉛筆デッサン （担当：繁村）				
第7回：課題⑦ 鉛筆デッサン （担当：繁村）				
第8回：総評・映像メディア表現（表現と鑑賞について）				
課題説明・画材説明 課題① 鉛筆デッサン（担当：多田）				
第9回：課題② 鉛筆デッサン （担当：多田）				
第10回：課題③ 鉛筆デッサン （担当：多田）				
第11回：課題④ スライド講義（解剖学） （担当：多田）				
第12回：課題⑤「素描論と白色浮出」スライド講義・実演・実践 （担当：多田）				
第13回：課題⑥ 鉛筆デッサン （担当：多田）				
第14回：課題⑦ 鉛筆デッサン （担当：多田）				
第15回：総評・映像メディア表現（表現と鑑賞について）（担当：多田）				
定期試験は実施しない。				
テキスト				
必要に応じて資料を配布。				
参考書・参考資料等				
デッサン用具一式				
学生に対する評価				
受講に対する積極性・理解度（40％）、成果物（作品）の内容（40％）、作品提出（20％）				

授業科目名： 造形演習Ⅰ（日本画）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村寿生
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①和紙というものの本質を知る。 ②千年前から使われている技法を取得できる。 ③黙示録に書かれたなぞを究明できる。				
授業の概要 和紙・天然岩絵具・膠を使った全て自然素材で描く日本画を体験する。テーマは「黙示録」。 中世ヨーロッパの絵画を題材に日本画で模写する。				
授業計画（1回2コマ） 第1回：授業説明 第2回：ドーサ引き 第3回：模本選び、上げ写し① 第4回：上げ写し② 第5回：裏打ち、下貼り 第6回：パネル張り込み 第7回：絵の具講義 第8回：彩色① 第9回：彩色② 第10回：彩色③ 第11回：中間講評、黙示録について場面の意味等発表 第12回：彩色④ 第13回：彩色⑤ 第14回：彩色⑥ 第15回：講評会 定期試験は実施しない。				
テキスト 必要に応じて資料を配布。				
参考書・参考資料等 F4号パネル、墨、硯、先の効く筆				
学生に対する評価 受講への態度・理解度（50％）、作品内容（50％）				

授業科目名： 造形演習Ⅰ（マンガ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 関本修平
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①シナリオをマンガの形にして表現できる。 ②マンガの制作過程を一通り体験し、理解する。 ③マンガにおける演出や視覚効果を使って表現できる。 ④提出のためのデータ作りの方法を身につける。 ⑤自分の作品についてプレゼンテーションできる。			
授業の概要			
既存のマンガ作品を元にした複数のシナリオから一つを選び、キャラクターや舞台を設定し、マンガ作品として再構成して仕上げる。 マンガ制作の中の「ストーリーの発想」の部分を省略し、その分、画面構成や演出など「絵で伝える」点を集中して学ぶ。			
授業計画（1回2コマ）			
第1回：課題内容、注意点の説明。キャラクターや舞台を設定する。			
第2回：キャラ表や舞台設定画をチェック。OKが出たらネームに入る（ネームのやり方がわからない学生にはネーム講習を行う）			
第3回：ネーム制作①（原稿用紙の使い方がわからない学生には原稿用紙講習を行う）			
第4回：ネーム制作②（原稿用紙の使い方がわからない学生には原稿用紙講習を行う）			
第5回：下描き制作①（スキャンの仕方がまだわからない学生にはスキャン講習を行う）			
第6回：下描き制作②（スキャンの仕方がまだわからない学生にはスキャン講習を行う）			
第7回：ペン入れ①（デジタル作業がわからない学生にはCLIPSTUDIOの講習を行う）			
第8回：ペン入れ②（デジタル作業がわからない学生にはCLIPSTUDIOの講習を行う）			
第9回：仕上げ作業①（最終データのチェック方法を今一度説明する）			
第10回：仕上げ作業②（最終データのチェック方法を今一度説明する）			
第11回：仕上げ作業③～仕上げまでの作業。（データ提出のため、スキャンなどの作業も入るので注意。）			
第12回：課題〆切（データミスがあった場合は随時説明）			
第13回：学生間相互講評			
第14回：講評			
第15回：講評			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
必要に応じて資料を配布。			
参考書・参考資料等			
筆記用具、定規、ペン、インクなど、マンガ制作に必要なもの一式。 データでの提出となる為、携帯可能な記録媒体（USBフラッシュメモリ等。8GB以上が望ましい）を用意し、各自で作業データのバックアップを管理すること。 その他、説明用プリントを配布する。			
学生に対する評価			
理解度（20%）、積極性（10%）、受講の態度（10%）、課題への取り組み（10%）、作品内容（50%）			

授業科目名： 共通基礎演習Ⅱ （彫刻）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田利雄 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・彫刻		
授業のテーマ及び到達目標 ①人物における「手」をモチーフに、動きや造形的な構成を理解し表現することができる。 ②水粘土を用いて、立体的な造形表現ができる。 ③モチーフをとおして、時間や感情的な要素を作品に込め表現することができる。			
授業の概要 水粘土を用いて「自分の手」を制作。 デッサン、塑像をとおして人体の持つ機能性や表現につながるポーズを考え、奥行きによる造形感覚を身につける。			
授業計画（1回2コマ） 第1回：課題説明、作業説明クロッキー説明 第2回：↓ 第3回：クロッキー制作 スライド説明 第4回：↓ 第5回：クロッキー制作 デッサンポーズ確定 第6回：↓ 第7回：デッサン 3方向からのデッサン（塑像のためのデッサン） 第8回：↓ 第9回：塑像準備：粘土練り 道具の説明 塑像制作① 第10回：↓ 第11回：塑像制作② 第12回：↓ 第13回：塑像制作③ 第14回：↓ 第15回：塑像制作④ 講評 片付け 定期試験は実施しない。			
テキスト 必要に応じて資料を配布。			
参考書・参考資料等 クロッキー帳、デッサン用具、回転台、塑像台、水粘土、塑像べら			
学生に対する評価 作品評価（50％）、態度・理解度（50％）			

授業科目名： 造形演習Ⅱ（彫刻）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田利雄
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 彫刻		
授業のテーマ及び到達目標			
①電気、ガスによる溶接、溶断ができグラインダー等の加工機械が使用できる。			
②金属加工技術を用いて立体物を制作できる。			
③作業前の準備を適切におこない、安全に配慮し作業ができる。			
授業の概要			
金属素材に触れ、金属造形の基礎的な加工技術である、電気溶接、ガス溶接、ガス溶断、金属研磨加工方法、仕上げ加工方法を身につける。			
金属加工の安全な作業方法を学び加工道具の使用方法を理解する。			
授業計画（1回2コマ）			
第1回：教科書使用 用具等の説明 映像授業			
第2回：ガス溶断講義実習 使用方法と実演			
第3回：ガス溶断実習			
第4回：グラインダー技法講義実習 使用方法と加工方法			
第5回：ガス溶接講義実習			
第6回：グラインダー技法実習			
第7回：ガス溶接講義実習 使用方法と実演			
第8回：ガス溶接実習			
第9回：アーク溶接講義実習 使用方法と実演			
第10回：アーク溶接実習			
第11回：CO2溶接（半自動溶接機）講義実習 使用方法と実演			
第12回：練習課題制作 説明と実寸			
第13回：練習課題制作 切断と研磨作業			
第14回：練習課題制作 溶接と組み立て			
第15回：練習課題制作 塗装方法と仕上げ 講評 採点			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
必要に応じて資料を配布。			
参考書・参考資料等			
金属材料（アングル材）等、金属実習用テキスト			
＊各自で用意するもの：作業服、帽子、安全靴			
学生に対する評価			
受講への態度・理解度（50％）、課題作品評価（50％）			

授業科目名： 共通基礎演習Ⅲ （デザイン）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：千葉知司、佐々木 悟郎、出井麻友美 担当形態： オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
①色彩について基本的な知識を身につけることができる。 ②作品を生み出す際に魅力的な色の組合せができるようになる。 ③スクリーンプリントの染色技法を身につけることができる。 ④ものを作る工程や手順を習得できる。				
授業の概要				
・デザインを理解する上で、必要な知識と技術を学ぶ。 ・はじめに「色彩」について学ぶ。色のことを理解し身につけることで、作品を生み出す際に魅力的な色の組合せができるようになり、更に表現にもつながる。次に「スクリーンプリント」の染色技法を学ぶ。布（エコバッグ、Tシャツ、ハンカチ等）の模様（デザイン）を考えて実際にプリントするので、ものを作る工程や手順を習得できる。 ・デジタルカメラを用いた作品制作用資料収集。 ・この授業では、学位授与の方針（ディプロマポリシー）に関する知識、態度を修得する。 ・この科目は学修目標の１、２、３に関連します。				
授業計画（１回２コマ）				
第１回：デザイン領域の理解（ヴィジュアルデザイン、クラフトデザイン、映像メディア表現等） 色彩構成課題説明：カラースタディー：色のしくみ（色相、補色など）について学ぶ。 （担当：千葉、佐々木）				
第２回：色面分割 a：静物を単純化した色面で構成する。（担当：千葉、佐々木）				
第３回：↓				
第４回：色面分割 b：風景。（担当：千葉、佐々木）				
第５回：↓				
第６回：色面分割 c：自画像。（担当：千葉、佐々木）				
第７回：↓				
第８回：スクリーンプリント課題説明、写真作品をもとにしたデザイン作成（担当：出井）				
第９回：デザイン作成（チェック）、紗張り（担当：出井）				
第１０回：デザイン作成（チェック）、デザイン完成、紗張り（担当：出井）				
第１１回：版下作成（担当：出井）				
第１２回：版下作成、版下完成（担当：出井）				
第１３回：製版、版完成（担当：出井）				
第１４回：プリント、掃除（担当：出井）				
第１５回：講評（担当：出井）				
定期試験は実施しない。				
テキスト				
必要に応じて資料を配布。				
参考書・参考資料等				
色彩構成：アクリルガッシュ、イラストボード、筆、パレット、筆洗器、ティッシュペーパーなど。 スクリーンプリント：デザイン用具は、授業初日までに掲示説明し各自準備。				
学生に対する評価				
授業への参加度、態度、理解度（50％）、提出作品（50％）				

授業科目名： 造形演習Ⅰ（キャラクター）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大枝美和
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
①“知識”がなければ“想像”はできません。“想像”のための“知識”を習得する。 ②Photoshop、CLIPSTUDIOといった、デジタルマンガに欠かせないソフトの基本を身につける。 ③知識と基本技術を身につけた上で、テンプレート上ではなく、“想像”によって何ができるかといった、“想像”し、形（コンテンツ）化していく力を付ける。				
授業の概要				
マンガは、わかりやすく「伝える」ことのできる表現。近年IoT、AI、AR、VR、3Dといったテクノロジーによって、マンガはコンテンツとしてあらゆる可能性を持っている。今までのマンガという概念に囚われず、マンガのあらゆる可能性を研究し、コンテンツ化し、そしてビジネスにつなげていくことを考える。 ●その基本である「伝える」とはどういうことなのか。今回はマンガで「伝える」をテーマに、今、デジタル表現はどのように進化しているのかといった、今、実践で進めている講義も含め、デジタルを使っの広告マンガの、入り口としての初歩的な素材作りを研究、体験、制作、そしてプレゼンするまで、実践として取り組んでいきます。 ○“伝える”は“想像”です。“伝える”を“わかりやすく”“おもしろく”“興味を抱かせる”ためにはどう表現すればいいか、考え、形にすることで、「想像を形にする力」を身につけることを目的とする。 ○“知識”がなければ、想像はできません。ソフトを覚えるというのも“知識”です。その知識を得ることで“想像”の可能性を広げていく。				
授業計画（1回2コマ）				
第1回：【レクチャー】デジタルということで、PC作業が必要となることから、Photoshop、CLIPSTUDIOのソフトを中心に、どう制作していくか技術的な基本部分をまず指導していきます。				
第2回：【レクチャー】デジタルということで、PC作業が必要となることから、Photoshop、CLIPSTUDIOのソフトを中心に、どう制作していくか技術的な基本部分をまず指導していきます。				
第3回：【レクチャー】デジタルということで、PC作業が必要となることから、Photoshop、CLIPSTUDIOのソフトを中心に、どう制作していくか技術的な基本部分をまず指導していきます。				
第4回：【ネーム/キャラ設定】表現に関してはそれぞれの個性を生かして、教える側もいっしょにアイデアを出し合っの制作となります。				
第5回：【ネーム】表現に関してはそれぞれの個性を生かして、教える側もいっしょにアイデアを出し合っの制作となります。				
第6回：【下描き】アナログでも可。				
第7回：【下描き】アナログでも可。				
第8回：【ペン入れ・彩色】アナログでも可。（ただし彩色はデジタル作業、レイヤー分けできる形にしてもらいます）				
第9回：【ペン入れ・彩色】アナログでも可。（ただし彩色はデジタル作業、レイヤー分けできる形にしてもらいます）				
第10回：【ペン入れ・彩色】アナログでも可。（ただし彩色はデジタル作業、レイヤー分けできる形にしてもらいます）				
第11回：【ペン入れ・彩色】アナログでも可。（ただし彩色はデジタル作業、レイヤー分けできる形にしてもらいます）				

第12回：【ペン入れ・彩色】アナログでも可。（ただし彩色はデジタル作業、レイヤー分けで きる形にしてもらいます） 第13回：【仕上げ・完成】 第14回：【学生間相互講評】 第15回：【プレゼン講評】自分の作品を教員へプレゼンしてもらいます。その上で全員でディ スカッションをして講評します。自分の作品をどうアピールし、売り込むことができ るかも制作の一部とします。その上で講評します。 定期試験は実施しない。
テキスト 必要に応じて資料を配布。
参考書・参考資料等 デジタル制作に関しては、Photoshop、CLIP STUDIOのソフトを中心に使います。 8GB以上のUSBメモリーを持参。 写真使用のときはデジタルカメラ持参。
学生に対する評価 表現力・技術力（70％）、授業への参加度・受講態度（30％）

授業科目名： 造形演習Ⅱ（水彩）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐々木悟郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 透明水彩の特性を理解する。			
授業の概要 水彩「透明水彩」 透明水彩の技法を身につけながら表現の可能性を考察し、イラストレーションとしての表現について学ぶ。 ワークショップ形式で、実技を中心に進める。			
授業計画（1回2コマ） 第1回：「カラースタディ①」カラーサークル（色相）、補色、彩度、明度など水彩の特性を使いながら学ぶ。 第2回：「カラースタディ②」カラーサークル（色相）、補色、彩度、明度など水彩の特性を使いながら学ぶ。 第3回：「静物①」果物、野菜、花などをモチーフにして水彩表現をする 第4回：「静物②」果物、野菜、花などをモチーフにして水彩表現をする。 第5回：「風景①」風景写真を参考に忠実に描く。 第6回：「風景②」風景写真を参考に忠実に描く。 第7回：「スケッチ①」野外での水彩によるスケッチ。 第8回：「スケッチ②」野外での水彩によるスケッチ。 第9回：「ポートレート①」人物描写。 第10回：「ポートレート②」人物描写。 第11回：「イラストレーション①」題材（文章）をもとに構図や描く世界を構築し作品として仕上げる。 第12回：「イラストレーション②」題材（文章）をもとに構図や描く世界を構築し作品として仕上げる。 第13回：「成果物を総合的にプレゼンテーション①」 第14回：「成果物を総合的にプレゼンテーション②」 第15回：講評 定期試験は実施しない。			
テキスト 必要に応じて資料を配布。			
参考書・参考資料等 透明水彩絵の具、水彩用の筆、パレット、水彩紙など。 必要に応じて参考資料のコピー等を配布。			
学生に対する評価 ワークショップへの取り組み（60％）、成果物・作品（40％）			

授業科目名： 総合デザイン論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本優子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①デザインとは何か、その使命について、わかりやすく具体的な言葉で第三者に説明できる。			
②消費者、事業者、創造者、生産者など、多様な視点に立ってデザインを総合的に捉えられる。			
③人々とデザインを取り巻く環境、その変化に即して、両者が直面する問題に眼を向けられる。			
④デザイン思考を体得し、自らの生活や社会現象をデザインの眼差しで分析・批評できる。			
⑤身近なテーマについて、デザインの力で有効な最適解を見出すための素養・訓練となる。			
授業の概要			
「デザインの根幹」「デザインの解剖」「デザインと社会」「デザインの実践」「デザインの継承」という5つのテーマを通じて、「デザインとは何か」をリアルに学ぶ。			
授業計画			
第1回：デザインの根幹 ①デザインの定義・領域 ②デザイン思考とその具現化 ③双方向的循環			
第2回：デザインの解剖（1）①装飾・形態・機能②素材・構造・生産技術③エルゴノミクス			
第3回：デザインの解剖（2）④普遍・個別・規範・創造⑤ユニヴァーサル⑥リ・デザイン、ロング・ライフ			
第4回：デザインの解剖（3）⑦オルテナティブ⑧サスティナブル⑨デザイン・プロジェクト			
第5回：デザインと社会（1）①デザインと近・現代の産業、科学技術、政治・経済、地球環境			
第6回：デザインと社会（2）②デザインと近・現代の美意識、さまざまな位相の芸術・文化、流行と趣味			
第7回：デザインと社会（3）③デザインと自然・風土、民族性・地域性、近世以前の歴史・文化			
第8回：デザインの実践（1）①空間とモノのデザイナー—都市、建築、エクステリア、インテリア			
第9回：デザインの実践（2）②モノのデザイナー—インテリア、インダストリアル、プロダクト、クラフト			
第10回：デザインの実践（3）③モノとコトのデザイナー—パッケージ、ファッション			
第11回：デザインの実践（4）④コトのデザイナー—タイポグラフィ、グラフィック、エディトリアル、C I			
第12回：デザインの実践（5）⑤コトとモノと空間のデザイナー—ディスプレイ、サイン、サービス			
第13回：デザインの実践（6）⑥トータル・デザイン、アート・ディレクション、共創の手法			
第14回：デザインの継承 ①デザインの評価②デザイン・ミュージアム③デザイン教育・施策			
第15回：ワークショップ 地域の文化を拓くデザイン・プロジェクト（グループ・ワーク）			
定期試験			
テキスト			
参考書・参考資料等			
毎回プリントを配布。			
学生に対する評価			
授業への参加（20％）、振り返りシート（30％）、ワークショップ（10％）、定期試験（小論文形式）（40％）			

授業科目名： 美術理論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 田中久美子	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
①作品を比較対照することによって視覚的に理解する。							
②美術の見方、理解の仕方にはさまざまな方法論があることを理解する。							
③コンテクストの変化によってイメージと意味の対応が変化することを確認する。							
④イメージ（図像）の細部へといたる「見る集中」を実践する。							
授業の概要							
まず美術史学の歴史と方法論を学びます。次いで、ギリシャ・ローマ神話、およびキリスト教（中世から20世紀にいたる）をテーマにした美術作品を紹介し、内容を理解し、社会的機能や表現のバリエーションを考えます。主に美術作品をとおして、美術理論を踏まえながらイメージリーディング（読解）の方法を実践します。イメージ読み取りのレッスンです。							
授業計画							
第1回：イントロダクション、美術史学の歴史							
第2回：美術史学の歴史と方法論							
第3回：様式論について							
第4回：図像学とイコノロジーについて							
第5回：ギリシャ・ローマ神話とイメージ、神々の誕生							
第6回：ゼウスをめぐる物語① オリンポスの神々							
第7回：ゼウスをめぐる物語② エウロペ、ダナエ、イオ、レーダー							
第8回：アフロディテをめぐる物語① 誕生の物語							
第9回：アフロディテをめぐる物語② クピド、プシュケ、アドニス、ウルカヌス、マルス、ピュグマリオン							
第10回：トロイア戦争をめぐる物語							
第11回：ギリシア神話に登場する英雄たち							
第12回：旧約聖書のテーマ							
第13回：キリスト伝							
第14回：マリア伝							
第15回：聖人伝							
定期試験は実施しない。							
テキスト							
適宜プリントを配布。							
参考書・参考資料等							
文献資料、参考図書は講義内で指示。							
学生に対する評価							
平常点（40％）、レポート（60％）							

授業科目名： 美術鑑賞	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中久美子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①知識・理解：ヨーロッパの歴史、街を知ることができる。 ②技能：調べること、それを発信する力をつけることができる。 ③態度・意欲：コミュニケーションする力を育む。			
授業の概要 この授業では、ヨーロッパの諸都市の建造物、美術館の作品を鑑賞します。また、受講生には作品を選び、独自に調査し、発表を行うと同時に、文章で表現し提出していただきます。 ヨーロッパ美術の見方や、それぞれの作品を取りまく諸状況、美術史、社会史的背景、作家等についての知識を深めることが目標です。 併せて、鑑賞眼を高め、鑑賞内容を言語媒体を通して適切に表現する力を養成します。 DVDや映像も適宜上映します。			
授業計画 第1回：イントロダクション 年間の授業の概要と、具体的な進め方の説明 第2回：パリの建造物、美術館①（ノートル・ダム聖堂、サント・シャペル、中世美術館、ルーヴル美術館、オルセー美術館、近代美術館など） 第3回：パリの建造物、美術館②（ノートル・ダム聖堂、サント・シャペル、中世美術館、ルーヴル美術館、オルセー美術館、近代美術館など） 第4回：パリの建造物、美術館③（ノートル・ダム聖堂、サント・シャペル、中世美術館、ルーヴル美術館、オルセー美術館、近代美術館など） 第5回：イタリアの諸都市と建造物、美術館①フィレンツェ（ウフィツィ美術館、サン・マルコ美術館、アカデミア美術館、パラティーナ美術館、その他の歴史的建造物） 第6回：イタリアの諸都市と建造物、美術館②フィレンツェ（ウフィツィ美術館、サン・マルコ美術館、アカデミア美術館、パラティーナ美術館、その他の歴史的建造物） 第7回：イタリアの諸都市と建造物、美術館③ ローマ（ヴァチカン） 第8回：イタリアの諸都市と建造物、美術館④ ローマ（フォロ・ロマーノ、その歴史的建造） 第9回：イタリアの諸都市と建造物、美術館⑤ ローマ（ローマの休日） 第10回：イタリアの諸都市と建造物、美術館⑥ ヴェネツィアの建造物、美術館（ドゥカーレ聖堂、サン・マルコ聖堂など） 第11回：イタリアの諸都市と建造物、美術館⑦ ヴェネツィアの建造物、美術館（ドゥカーレ聖堂、サン・マルコ聖堂など） 第12回：イタリアの諸都市と建造物、美術館⑧ シエナ（シエナ大聖堂、プッブリコ宮殿美術館、カンポ広場など） 第13回：イタリアの諸都市と建造物、美術館⑨ ミラノ（サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会、ミラノ大聖堂など）ボローニャ（国立絵画館）、モデナ（エステンセ美術館、グランデ広場）、パルマ（国立絵画館） 第14回：ウィーンの建造物、美術館① 第15回：ウィーンの建造物、美術館② 定期試験は実施しない。			
テキスト			
参考書・参考資料等 『世界美術大全集』（小学館） 参考資料（地図、年表等を含む）を随時配布。			

学生に対する評価

平常点（参加状況、小テスト、課題提出）（40%）、レポート（60%）

授業科目名： 東洋美術史		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 大澤慶子	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む）					
授業のテーマ及び到達目標 ①知識・理解：東洋各地の美術と、東西交流史について、比較・理解できる。 ②態度・意欲：動画・パワーポイント・ゲームキャラクターなどをおし、東洋美術を身近に感じることができる。							
授業の概要 古代オリエントからペルシア、インド、中国にかけてのアジア諸地域の美術の歴史を概観し、東洋美術に関する基礎知識を習得する。 さまざまな地域や時代の造形が、どのように関連性をもっているかを視野に入れ学ぶ。							
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：古代オリエントの美術（1） 第3回：古代オリエントの美術（2） 第4回：古代ペルシアの美術 第5回：古代インドの美術（1） 第6回：古代インドの美術（2） 第7回：中国の美術 殷・周時代 第8回：中国の美術 秦・漢時代 第9回：シルクロードと仏教美術 第10回：中国の美術 石窟寺院を中心に（1） 第11回：中国の美術 石窟寺院を中心に（2） 第12回：韓国の美術 第13回：中国・韓国の彫刻と日本の彫刻 第14回：中国・韓国絵画と日本の絵画（1） 第15回：中国・韓国絵画と日本の絵画（2） 定期試験は実施しない。							
テキスト 毎回資料を配布。							
参考書・参考資料等 『すぐわかる東洋の美術』竹内順一 2012年（東京美術）、『カラー版 東洋美術史』前田耕作監修 2000年（美術出版）、『世界美術全集 東洋編』（小学館）							
学生に対する評価 平常点（20%）、リアクションペーパー（20%）、期末レポート（60%）							

授業科目名： 日本美術史Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大澤慶子
				担当形態：単独
科 目		教科及び指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
①知識・理解：映像資料により、原始から中世にかけての主要な名品を鑑賞しながら、日本美術の流れとその特色を理解することができる。				
②技能：日本美術史の基礎的な用語、ディスクリプションの方法などを習得することができる。				
③意欲・態度				
授業の概要				
日本美術の歴史について概観し、歴史・社会・思想的背景について理解を深め、美術の歴史がそれらと有機的に結びついていることを理解する。				
授業計画				
第1回：ガイダンス 縄文時代の美術				
第2回：弥生時代の美術				
第3回：古墳時代の美術				
第4回：飛鳥時代前期の美術				
第5回：飛鳥時代後期の美術				
第6回：奈良時代の美術（彫刻）				
第7回：奈良時代の美術（絵画）				
第8回：平安時代前期の美術（1）				
第9回：平安時代前期の美術（2）				
第10回：平安時代後期の美術（彫刻）				
第11回：平安時代後期の美術（絵画）				
第12回：鎌倉時代の美術（彫刻1）				
第13回：鎌倉時代の美術（彫刻2）				
第14回：鎌倉時代の美術（絵画1）				
第15回：鎌倉時代の美術（絵画2）				
定期試験は実施しない。				
テキスト				
必要に応じて資料を配布。				
参考書・参考資料等				
『日本美術の歴史』辻惟雄 2005年（東京大学出版会）、『仏像のひみつ』山本勉 2006年、『続仏像のひみつ』2008年（朝日出版社）、『日本美術全集』（講談社、小学館）、『日本古寺美術全集』（集英社）など				
学生に対する評価				
平常点（20％）、リアクションペーパー（20％）、期末レポート（60％）				

授業科目名： 日本美術史Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上野憲示
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む）		
授業のテーマ及び到達目標				
①教科書『世界に誇る日本美術史』を熟読し、自らの基礎知識を高める。				
②『原色 日本の美術』等 全集本のカラー図版に親しんでおく。				
③授業で紹介された作家や作品について、さらに自主学習する。				
④歴史の流れの中でのバランス感覚を養う。				
⑤テクニカルターム（専門用語）の理解。				
授業の概要				
日本美術史の概説後半部として、日本美術の流れを大観し、主要な名品を観賞し、著名美術家の生涯を追体験することを通して、日本美術の特質の理解にまで迫りたい。				
そのためにA V資料、コンピュータ資料等を活用し、立体的な授業態勢を計画する。				
授業計画				
第1回：院政時代・鎌倉時代の美術①（装飾経、六道絵、絵巻物〈源氏・鳥獣・信貴山・伴大〉、似絵）				
第2回：院政時代・鎌倉時代の美術②（装飾経、六道絵、絵巻物〈源氏・鳥獣・信貴山・伴大〉、似絵）				
第3回：院政時代・鎌倉時代の美術③（鎌倉新仏教、禅宗文化の導入）				
第4回：院政時代・鎌倉時代の美術④（鎌倉新仏教、禅宗文化の導入）				
第5回：南北朝時代の美術①（お伽草紙絵巻、復古主義、擬古文学・美術）				
第6回：南北朝時代の美術②（お伽草紙絵巻、復古主義、擬古文学・美術）				
第7回：室町時代の美術①（禅宗文化の興隆、水墨画、雪舟、書院造、能、茶道芸術、画家集団、狩野派、武将画、北山文化と東山文化）				
第8回：室町時代の美術②（禅宗文化の興隆、水墨画、雪舟、書院造、能、茶道芸術、画家集団、狩野派、武将画、北山文化と東山文化）				
第9回：安土桃山時代の美術①（日明貿易、堺衆、信長・秀吉の嗜好、千利休、南蛮貿易、キリスト教文化、天守閣の美）				
第10回：安土桃山時代の美術②（日明貿易、堺衆、信長・秀吉の嗜好、千利休、南蛮貿易、キリスト教文化、天守閣の美）				
第11回：江戸時代の美術①（狩野派のアカデミズム、琳派、円山四条派、南画、浮世絵洋風画、木喰円空、日光東照宮、上方文化と江戸文化）				
第12回：江戸時代の美術②（狩野派のアカデミズム、琳派、円山四条派、南画、浮世絵洋風画、木喰円空、日光東照宮、上方文化と江戸文化）				
第13回：江戸時代の美術③（狩野派のアカデミズム、琳派、円山四条派、南画、浮世絵洋風画、木喰円空、日光東照宮、上方文化と江戸文化）				
第14回：近代への始動①（文明開化と欧化主義、万博参加・お雇い外国人による急激な西洋化、そして反動としての国粹的な揺り戻し）				
第15回：近代への始動②（近現代の美術界の動向、昨今の美術状況）				
定期試験				
テキスト				
『世界に誇る日本美術史』上野憲示著 2019年（徳間書店）				
参考書・参考資料等				
『おもしろ日本美術Ⅰ』上野憲示著 2008年（文星芸術大学出版）				
学生に対する評価				
・期末レポートあるいは期末試験（60％）、小レポート・その他（30％）、授業態度等（10％）				

授業科目名： 西洋美術史Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中久美子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①知識・理解：美術の流れを理解し、作品の鑑賞の仕方を身につけることができる。 ②態度・意欲：調べる力・考える力・書く力を身につけることができる。			
授業の概要 古代から19世紀までの西洋美術史の流れを概観する基礎的な通史。 ただし、単なる編年的な歴史概論ではなく、イメージの形、意味、機能、受容、流通のさまざまなあり方を、当時の時代・文化・社会の網目の中で多層的に捉えつつ、イメージそのもの、あるいは美術史という学問自体がはらんでいるさまざまな問題をともに考えていきます。			
授業計画 第1回：はじめに／古代ギリシアⅠ 第2回：古代ローマ 第3回：キリスト教の出現 第4回：初期中世美術 第5回：ロマネスク美術 第6回：ゴシック美術 第7回：ビザンティン美術 第8回：初期ルネサンス美術 第9回：北方ルネサンス美術 第10回：盛期ルネサンス美術Ⅰ 第11回：盛期ルネサンス美術Ⅱ 第12回：17世紀の美術Ⅰ 第13回：17世紀の美術Ⅱ 第14回：ロココ美術 第15回：新古典主義美術とロマン主義美術 定期試験は実施しない。			
テキスト 適宜プリントを配布。			
参考書・参考資料等 『世界美術大全集』（小学館）			
学生に対する評価 平常点（参加状況、課題提出、小テスト）（40%）、レポート（60%）			

授業科目名： 西洋美術史Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中久美子
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
①知識・理解：美術の流れを理解し、作品の鑑賞の仕方を身につけることができる。				
②態度・意欲：調べる力・考える力・書く力を身につけることができる。				
授業の概要				
19世紀から1950年までの西洋美術史の流れを概観する基礎的な通史。				
ただし、単なる編年的な歴史概論ではなく、イメージの形、意味、機能、受容、流通のさまざまなあり方を、当時の時代・文化・社会の網目の 中で多層的に捉えつつ、イメージそのもの、あるいは美術史という学問自体がはらんでいるさまざまな問題をともに考えていきます				
授業計画				
第1回：はじめに／19世紀写実主義の美術、近代風景画の発展				
第2回：印象主義の美術Ⅰ				
第3回：印象主義の美術Ⅱ				
第4回：印象主義の美術Ⅲ				
第5回：ジャポニズム				
第6回：ポスト・インプレッショニズムⅠ				
第7回：ポスト・インプレッショニズムⅡ				
第8回：アカデミズムとサロン絵画				
第9回：19世紀の彫刻				
第10回：象徴主義と世紀末美術				
第11回：装飾美術とアール・ヌーヴォ				
第12回：キュビズムとピカソ				
第13回：フォーヴィズムとマティス				
第14回：エコール・ド・パリ				
第15回：ダダイズム、シュルレアリズム、抽象主義				
定期試験は実施しない。				
テキスト				
適宜プリントを配布。				
参考書・参考資料等				
『世界美術大全集』（小学館）				
学生に対する評価				
平常点（参加状況、課題提出、小テスト）（40％）、レポート（60％）				

授業科目名： 西洋美術史Ⅲ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中久美子
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
①知識：西洋における本の歴史を理解することができる				
②技能：中世の本の体験ができる				
③態度・意欲：調べる力、発表する力				
授業の概要				
冊子上の形態のマニユスクリプト（写本）は4世紀に誕生し、15世紀の活版印刷の発明で終焉を迎えます。				
写本に描かれた挿絵の歴史をたどるということは中世の絵画の歴史をたどることにほかなりません。				
講義では写本挿絵をテーマに取り上げて、中世から15世紀に終焉を迎えるまでの挿絵の変遷を概観します。				
中世の絵画の理解を深めると同時に、写本芸術の独自性という問題についても考えてゆきます。				
授業計画				
第1回：ガイダンス／写本の誕生Ⅰ				
第2回：写本の誕生Ⅱ				
第3回：写本制作の現場				
第4回：古代末期の写本				
第5回：初期中世の写本				
第6回：イニシアル芸術				
第7回：カロリング朝、オットー朝写本				
第8回：薔薇の名前				
第9回：ロマネスク期の写本				
第10回：ゴシック期の写本				
第11回：写本製作体験				
第12回：時祷書Ⅰ				
第13回：時祷書Ⅱ				
第14回：写本の周縁部				
第15回：バルテルミー・デック				
定期試験は実施しない。				
テキスト				
適宜プリントを配布。				
参考書・参考資料等				
『世界でもっとも美しい装飾写本』田中久美子著（MdN）				
学生に対する評価				
平常点（参加状況、課題提出、小テスト）（40%）、レポート（60%）				

授業科目名： デザイン史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本優子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①近世以前の建築・ものづくりと、近代建築・デザインの違い、両者のつながりを把握できる。 ②19世紀～21世紀の世界史・日本史の流れと文脈において、近代建築・デザインを捉えられる。 ③単なる建築・デザインの様式ではなく、時代と社会を括る思想としてモダニズムを理解できる。 ④影響関係がある周辺の文化領域（「授業時間外学習・学習上の助言」参照）に関心を持てる。 ⑤世界の国・地域、日本と各地域の近代建築・デザインの共通項、それぞれの特性を掴める。			
授業の概要			
「近世以前と近代以降」「モダニズムの萌芽・確立・展開・敷衍」「芸術と社会」「世界・日本・地域」「戦後」という5つの切り口から、「近代 建築・デザイン史」を幅広く学ぶ。			
授業計画			
第1回：近世以前の建築・ものづくり ①西洋篇②日本篇③古典・歴史主義をめぐって 第2回：近代建築・デザインの萌芽（1）①産業革命と万国博覧会②アーツ・アンド・クラフツ運動 第3回：近代建築・デザインの萌芽（2）③新芸術④ナショナル・ロマンティシズム 第4回：モダニズムの確立 ①工業化社会と資本主義経済②ドイツ工作連盟③表現主義 第5回：先進的モダニズム ①ル・コルビュジエ②バウハウス③インターナショナル・スタイル 第6回：保守的モダニズム ①アール・デコ②アメリカの工業デザイン③マシーン・エイジ 第7回：芸術と社会の大変革（1）①イタリア未来派とファシズム②デ・ステイルとアムステルダム派 第8回：芸術と社会の大変革（2）③ロシアの前衛と構成主義④社会主義国家の建築・デザイン 第9回：ヴァナキュラー・モダン（1）北欧篇①フィンランド②デンマーク③スウェーデン 第10回：ヴァナキュラー・モダン（2）近代日本篇①明治②大正③昭和戦前 第11回：ヴァナキュラー・モダン（3）フランク・ロイド・ライトの周辺①アメリカ②日本と宇都宮 第12回：ミッド・センチュリー①1950年代②1960年代③モダニズムの危機 第13回：ポストモダニズム①1970年代②1980年代③モダニズムの解体・再構築 第14回：コンテンポラリー・エイジ①1990年代②2000年代以降③デジタルと多様性の時代に 第15回：モダニズムを総括する 近代建築・デザインの名作に関するグループ・ディスカッション			
定期試験			
テキスト			
『デザイン史を学ぶクリティカル・ワークズ』高島直之（監修）橋本優子・菅谷富夫・肴倉睦子（編）2006年（フィルムアート社）			
参考書・参考資料等			
『図鑑デザイン全史』柏木 博（監修）橋本優子・井上雅人・天内大樹（訳）2017年（東京書籍）			
学生に対する評価			
授業への参加（20％）、振り返りシート（30％）、グループ・ディスカッション（10％）、定期試験（小論文形式）（40％）			

授業科目名： 色彩論Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北嶋秀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①「光と色」（初級）の関係を理解し、説明することができる。 ②「PCCS（日本色研配色体系）」の色相とトーンの間を関係を理解し、配色に応用できる。 ③色彩検定協会の「色彩検定3級」合格程度のレベルを目指す。			
授業の概要			
「色彩学」とは「色彩科学」、すなわち色彩を科学的に解明する学問です。色を見るためには基本的に必要な要素が3つあります。「光」・「物体」・「視覚（眼）」です。したがって、色彩学は「光」などの物理光学的 な側面、「物体」を通して色を見たときの感情などに影響を及ぼす心理学的な側面、そして「視覚（眼）」など眼の構造、すなわち生理学的な側面から色にアプローチするという学問です。このように色彩学は自然科学（理数系）から人文科学（文系）までを横断的に含む学際的な学問であり、そこに特徴を有しています。本校での色彩学は初級編の「色彩論Ⅰ」と中級編の「色彩論Ⅱ」から構成されています。 また、色彩学の中心的なテーマを2つ挙げると 1）人が色を見分ける仕組み 2）見えた色を記号で厳密に表す方法 です。 2）を「表色系」といいますが、その一つである「PCCS（日本色研配色体系）」を習得することは、より深く色彩について学びたいと考える者にとっては最も重要なことです。色紙を使って実際に配色作業を体験することにより、表現力や思考力を養い、PCCSの理解を深めます。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、授業計画の説明、色のはたらき、色はなぜ見えるのか 第2回：光と色（1）光とは何だろう 第3回：光と色（2）眼のしくみ、照明と色の見え方 第4回：色の表示（1）色の分類（有彩色と無彩色） 第5回：色の表示（2）色の三属性（色相、明度、彩度） 第6回：色の表示（3）PCCS（色相、明度、彩度、三属性による色の表示、等色相面、色立体） 第7回：色の表示（4）PCCS（トーン、トーンのイメージ、色相とトーンによる色の表示方法） 第8回：色の表示（5）言葉による色表示（基本色名、系統色名、固有色名、慣用色名、JISの色名） 第9回：光と色（3）混色（加法混色と減法混色） 第10回：色彩調和（1）配色の基本的な考え方、演習1 第11回：色彩調和（2）色相から配色を考える、演習2 第12回：色彩調和（3）トーンから配色を考える、配色の基本的な技法、演習3 第13回：色彩調和（4）配色技法、演習4 第14回：色彩心理（1）色の視覚効果、色対比、同化現象、色陰現象、色の面積効果、演習5 第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
『色彩』大井義雄・川崎秀昭著（日本色研事業株式会社）、トータルカラー65色（日本色研事業株式会社）			
参考書・参考資料等			
『色彩検定公式テキスト3級編』（色彩検定協会）			
学生に対する評価			
授業への参加状況・受講態度（15%）、提出物（演習課題）（25%）、期末試験（60%）			

授業科目名： 色彩論Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北嶋秀子 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
①「光と色」（中級）について理解し、説明することができる。 ②「マンセル表色系」の基本的知識を理解し、説明することができる。 ③色彩調和の法則を理解し、それに則った配色ができる。 ④色彩検定協会「色彩検定2級」程度のレベルを目指す。				
授業の概要				
美術にとって関係が極めて深い「色彩」について科学的に学ぶ授業です。「色彩論Ⅱ」は、「色彩論Ⅰ」をさらに進化させた内容であり、本校では色彩学の中級という位置づけです。 「色彩論Ⅱ」では「目にした色を表現し、伝達する」ところに大きな視点があります。色を「伝達する」ための新しい「色のものさし」として、JIS規格でもある「マンセル表色系」を学びます。「色彩論Ⅰ」では「色のものさし」は「PCCS（日本色研配色体系）」だけでしたが、いろいろな「色のものさし」を学ぶことによって、「色彩」に対する理解を深めることを目指します。 学習内容は、講義と演習の2本立てで行います。講義ではマンセル表色系を理解することが主な目的です。演習ではPCCSの色紙を使い、色彩調和に則った配色を学びます。それによって、PCCSについての基本的な知識の強化をはかります。色彩検定受験を目指す学生にとっては、短期間で効果的な内容です。				
授業計画				
第1回：ガイダンス 授業計画の説明、生活と色（身の回りの色の見え方）、色の機能的特徴 第2回：光と色（1）光の性質と色（色の見え方と光の関係、色の見えやすさ） 第3回：色の表示（1）マンセル表色系 第4回：光と色（2）視覚系の構造と色、色覚 第5回：色彩調和（1）自然の秩序と色彩調和、自然から学ぶ配色 演習1 第6回：色彩調和（2）配色の基本技法 演習2 第7回：色彩調和（3）PCCSと、その色相とトーンによる配色分類法 演習3 第8回：色彩調和（4）配色と調和 演習4 第9回：色彩調和（5）ジャッド4つの色彩調和論 演習5 第10回：色の表示（2）JISの色名規格（系統色名他） 第11回：文化と配色調和 日本と西洋の配色の考え方 第12回：トーンと配色イメージ 第13回：ユニバーサルカラー 第14回：古代文化と色彩の成立 色名「青と緑」について、基本色彩語 バーリン&ケイ、色のカテゴリー 第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト				
『色彩』大井義雄・川崎秀昭著（日本色研事業株式会社）、トータルカラー65色（日本色研事業株式会社）				
参考書・参考資料等				
『色彩検定公式テキスト2級編』（色彩検定協会）				
学生に対する評価				
授業への参加状況・受講態度（15%）、提出物（演習課題）（25%）、期末試験（60%）				

授業科目名： 美術解剖学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤恵夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①レリーフにより、運動によってどう変化するかなどについて理解すること。 ②造形表現された人体が自然の人体とどのような関係にあるかについても、美術解剖学的立場からの分析できる力をつけること。 ③人体と動物の骨格を比較することで、ヒトのみならず動物の体の構造を理解し、造形表現に役立てることが出来るようになること。			
授業の概要 美術大学の学生に必要なのは死体の解剖学ではない。美術解剖学は美術家のための生体学であり、造形活動に必要な、生きている人のからだの形態や構造、運動のメカニズムを学ぶ学問である。この講義では骨格系を中心に、人体の仕組みを学び、その仕組みが体表にどのようなレリーフを作り、運動によってどう変化するかなどについて学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 美術解剖学の概論 第2回：用語とプロポーション 方向用語・運動用語 第3回：頭部1 頭蓋 第4回：頭部2 頭蓋の造形表現 第5回：体幹1 脊柱の骨格 第6回：体幹2 胸郭の骨格 第7回：体幹3 脊柱・胸郭の造形表現 第8回：上肢 上肢の骨格と運動 第9回：日本の伝統文化：折紙 第10回：下肢 下肢の骨格と運動 第11回：コントラポスト 第12回：骨格の造形表現 第13回：動物美術解剖学1 動物の観察と表現 第14回：動物美術解剖学2 古生物の復元 第15回：天象美術解剖学 定期試験			
テキスト			
参考書・参考資料等 『入門 美術解剖学』高橋 彬著（医歯薬出版）、『スカルプターのための美術解剖学』アルディ ス・ザリンス、サンディス・コンドラッツ著 加藤 諒（編）			
学生に対する評価 ・定期試験（60％）、平常点（40％）			

授業科目名： 美術解剖学Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 伊藤恵夫 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ①筋及び諸器官が実際にどのように表現されているかについて理解を深めること。 ②龍やドラゴン、モンスター等の空想上の動物についても、その造形表現上の工夫を考察し、表現できる方法を身につける。				
授業の概要 美術解剖学Ⅱは美術解剖学Ⅰで修得した骨学的知識を基礎に、主として骨格筋、皮膚とその付属器、眼、鼻、口、耳などの頭部の感覚器について講義を行う。骨格筋は体表のレリーフを作るだけでなく、その収縮によって運動を引き起こし、からだの形を変化させて体表のレリーフを変えるので、骨格筋に関する知識と理解は造形活動にとって極めて重要である。この授業では筋や皮膚、頭部の感覚器の講義に並行して、造形表現された人体像の美術解剖学的分析を行い、筋及びこれら諸器官が実際にどのように表現されているかについて学ぶ。 また、人体のみならず、球体関節人形や人型ロボット等（アニメ・漫画を含む）にも言及し、それらとヒトとの比較を行うことによって関節等の構造と機能を理解し、造形表現する際の助けとする。				
授業計画 第1回：講義予定と講義内容についての概説 第2回：骨格筋、運動の種類など 第3回：頭部の筋 咀嚼筋・表情筋 第4回：感覚器 第5回：頸部の筋 第6回：胸部・腹部・背部の筋 第7回：呼吸・嚥下 第8回：上肢の筋 第9回：下肢の筋 第10回：乳房のつくり 第11回：可動人形 第12回：動物美術解剖学・植物美術解剖学 第13回：空想動物の造形表現 第14回：人型ロボット 第15回：映像鑑賞 補足 定期試験				
テキスト				
参考書・参考資料等 『入門 美術解剖学』高橋 彬著（医歯薬出版）、『スカルプターのための美術解剖学』アルディ ス・ザリンス、サンディス・コンドラッツ著 加藤 諒（編）				
学生に対する評価 定期試験（60％）、平常点（40％）				

授業科目名： 美術科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 駒田郁夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：美術教育の目標・内容等の理解と指導計画・指導方法の研究・実践 ・美術教育の学校教育の中で果たす意義や役割、また美術教育の目標について、様々な考えをもとに考察を加えることができる。 ・学習指導要領に記載されている美術科の内容の構成と各領域及び共通事項の内容等について理解し、学習指導案の作成に生かすことができる。 ・自分が行う模擬授業の学習指導案を作成するとともに、材料、用具等を準備して、模擬授業を実施することができる。 ・他の履修生の模擬授業に参加して授業を受けるとともに、授業の内容や指導状況について評価することができる。			
授業の概要 美術教育の基礎的な方法論や学習指導案の書き方を学習し、模擬授業を通してその具現化を図るとともに、授業研究会を通して改善点等について検討する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（講義の概要と履修の心構え）、美術の教科性（図書館やインターネットを活用した芸術および教育関連用語の語句調べ） 第2回：中学校学習指導要領解説美術編の概要 第3回：高等学校学習指導要領解説芸術編の概要 第4回：表現に関わる題材開発と指導の流れの検討（グループワーク） 第5回：学習指導案の形式と表現に関わる学習指導案の検討（グループワーク） 第6回：評価規準の作成と評価方法 第7回：鑑賞の学習指導と教育機器の活用 第8回：芸術科（美術）授業における情報機器を活用した教材・資料の在り方と学習指導案の作成 第9回：模擬授業（表現：絵画に関する内容） ・授業前に必ず担当教員から事前指導を受けるようにする。 ・授業者以外の履修生は、生徒として模擬授業に参加する。 ・それぞれの模擬授業終了後、当該授業の授業研究を行う。 ・授業者は指導案をもとに授業の趣旨説明と反省等を述べるようにする。 ・授業者以外の履修生は模擬授業効果測定用紙に記入し、授業研究会に臨むようにする。 第10回：模擬授業（表現：彫刻に関する内容） 第11回：模擬授業（表現：デザインに関する内容） 第12回：模擬授業（表現：映像メディア表現に関する内容） 第13回：模擬授業（鑑賞：平面に関する内容）（ICTの活用を含む） 第14回：模擬授業（鑑賞：立体に関する内容）（ICTの活用を含む） 第15回：模擬授業及び本講座の振り返り 定期試験は実施しない。			

テキスト

中学校学習指導要領解説美術編 文部科学省、高等学校学習指導要領解説芸術編 文部科学省

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 美術】

国立教育政策研究所 教育課程研究センター（東洋館出版社）

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説総則編 文部科学省、高等学校学習指導要領解説総則編 文部科学省

学生に対する評価

レポート（３０％）、模擬授業の状況（４０％）、小レポートや提出物の状況（３０％）

授業科目名： 美術科指導法Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 駒田郁夫
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：美術教育の目標・内容等の理解と指導計画・指導方法の研究・実践				
・美術教育の学校教育の中で果たす意義や役割、また美術教育の目標について、様々な考えをもとに考察を加えることができる				
・学習指導要領に記載されている美術科の内容の構成と各領域及び共通事項の内容等について理解し、学習指導案の作成に生かすことができる				
・各項目の実践をとおして、素材の特性や道具の使い方、作業手順の考察等の理解を深め、美術教育活動に必要な知識とスキルを習得し指導に役立てることができる				
・様々な素材体験を通して、美術授業の理解を深め、年間指導計画書を作成することができる				
授業の概要				
美術教育の基礎的な方法論やその成り立ちを理解し、実践授業をとおしてその素材理解や作業手順、表現方法について考察し、改善点等について検討する				
授業計画				
第1回：ガイダンス 美術の意味と美術教育について（図書館やインターネットを活用した芸術および教育関連用語の語句調べ）				
第2回：日本の美術教育の流れと歴史				
第3回：外国の美術教育の流れと歴史				
第4回：高等学校学習指導要領 解説 芸術編について				
第5回：表現と指導—絵画1 遠近法の種類				
第6回：表現と指導—絵画2 遠近法の表現 「自分の部屋」授業研究会				
第7回：表現と指導—彫刻1 準備 説明				
第8回：表現と指導—彫刻2 奥行と面分割 芯棒と肉付け 授業研究会				
第9回：表現と指導—デザイン1 ユニットデザインについて				
第10回：表現と指導—デザイン2 ユニット表現 制作「4×4」授業研究会				
第11回：表現と指導—教材研究1 教材選びとその目的				
第12回：表現と指導—教材研究2 教材制作と授業研究会 レポート				
第13回：表現と指導—映像1 フリップブックとフェナキスティスコープ 制作と展開				
第14回：鑑賞と指導1 鑑賞学習の目的と内容（ICTの活用を含む）				
第15回：鑑賞と指導2 対話型鑑賞の実践 美術館での屋外授業				
定期試験は実施しない。				

テキスト

高等学校学習指導要領（平成30年告示） 解説 美術編 文部科学省
その他、授業中に適宜プリントを配付する。

参考書・参考資料等

「美術科教育の基礎知識」 建帛社

学生に対する評価

授業状況（発表・発言）、態度、理解度（50%） 作品・レポート（50%）

授業科目名： ボランティア実習Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 丸山純一
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：ボランティア活動に参加し、その経験を振り返ることによりボランティア精神を体験的に理解する。			
到達目標：			
・ ボランティア精神を理解する。			
・ 地域社会、他者のニーズに気づけるようになる。			
・ 自分の能力を生かし、困っている人の課題を解決するために、提案したり、自ら積極的に活動したりできるようになる。			
授業の概要			
参加するボランティア活動は大学が紹介する中から選んでも良いし、自分で探してきてもかまわない。教職課程の科目であることに鑑みて、対象は小中高生の年齢であることが望ましい。			
活動は近隣の小中学校、教育委員会、NPO等が募集する子どもの学習指導やイベントでのお手伝いや、子どもも参加する地域の奉仕活動などが主なものである。			
ボランティアの依頼者やイベントの主催者と日程や参加条件を話し合い、教員に計画書を提出して許可を得る。			
活動実施後、教員にその旨報告する。学期の最後に活動の振り返りと発表会を行い、最後に報告書を提出すること。			
授業計画			
〈事前指導〉			
第1回：ガイダンス、ボランティア精神とは			
第2回：ボランティア活動への参加の仕方			
〈活動期間〉			
第3回～第12回：10コマ分を活動期間に充てるが、大学では1単位を45時間分の学修と見なすので、概ね30時間程度の活動が望ましい。			
〈事後指導〉			
第13回：グループディスカッションによる活動の振り返り			
第14回：個人発表①			
第15回：個人発表②、講評、まとめ			
定期試験は実施しない。			

テキスト 適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 適宜資料を配付する。
学生に対する評価 事前に提出する活動計画書、事後に提出する活動報告書（70％）及び事後指導での発表を含めた平常点（30％）で評価する。

授業科目名： ボランティア実習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 丸山純一
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：ボランティア活動に参加し、その経験を振り返ることによりボランティア精神を体験的に理解する。ボランティア実習Ⅰの経験をふまえ、より主体的に活動を企画立案し、周囲を巻き込み、リーダーシップを発揮できるようになる。			
到達目標：			
・ボランティア精神を理解し実践できるようになる。			
・傾聴力を高め、地域社会、他者のニーズを積極的に探すようになる。			
・自分の能力を生かし、困っている人の課題を解決するために提案したり、自ら積極的に活動したりできるようになるばかりでなく、ボランティアの輪を広げることができるようになる。			
授業の概要			
参加するボランティア活動は大学が紹介する中から選んでも良いが、自分で探すことが望ましい。また、一人あるいは複数で、ボランティア活動を企画立案しても良い。教職課程の科目であることに鑑みて、対象は小中高生の年齢であることが望ましい。活動は近隣の小中学校、教育委員会、NPO等が募集する子どもの学習指導やイベントでのお手伝いや、子どもも参加する地域の奉仕活動などが主なものである。			
ボランティアの依頼者やイベントの主催者と日程や参加条件を話し合い、教員に計画書を提出して許可を得る。			
活動実施後、教員にその旨報告する。学期の最後に活動の振り返りと発表会を行い、最後に報告書を提出すること。			
授業計画			
〈事前指導〉			
第1回：ガイダンス、ボランティア実習Ⅰの振り返り			
第2回：ボランティア活動への参加の仕方			
〈活動期間〉			
第3回～第12回：10コマ分を活動期間に充てるが、大学では1単位を45時間分の学修と見なすので、概ね30時間程度の活動が望ましい。			
〈事後指導〉			
第13回：グループディスカッションによる活動の振り返り			
第14回：個人発表①			

第15回：個人発表②、講評、まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

適宜資料を配付する。

学生に対する評価

事前に提出する活動計画書、事後に提出する活動報告書（70％）及び事後指導での発表を含めた平常点（30％）で評価する。

授業科目名： 日本国憲法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 齋藤静敬
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標				
①日本国憲法の基本原理、その意味・内容を習得することができる。				
②憲法の基礎的知識を得ることにより、社会生活が豊かになる。				
③憲法の規定に関し、代表的な訴訟事件を把握することができる。				
授業の概要				
『憲法を身近なものとしてとらえる』 憲法は、国家の根本原則、すなわち国家の統治組織及び統治作用に関する基本的なあり方などについて定めている根本法であります。憲法を学ぶことによって、憲法とはどんなものであるかを把握理解すると同時に、私達の生活に如何にかかわっているのか、憲法を身近なものとして捉えることを目的とします。				
授業計画				
第1回：ガイダンス／日本国憲法の概念 憲法が如何に私達に身近なものであるか。				
第2回：日本国憲法の基本原理 憲法の規定の性格について。				
第3回：民主制と天皇制（第1条） 本来、民主制と天皇制は両立困難であるが、両方を調和せしめた。				
第4回：戦争の放棄（第9条） 国際平和ということが、如何に大切なものであるか。				
第5回：基本的人権の概念（第11条・第13条・第97条） 大日本帝国憲法と日本国憲法における人権保障の差異。				
第6回：基本的人権と公共の福祉との関係 基本的人権と公共の福祉との関係について。				
第7回：法の下での平等（第14条・第24条） 本条は、その差異に応じたあらゆる合理的な差別まで禁止する趣旨ではない。				
第8回：生存権（25条） 今日の生存権の意味。				
第9回：死刑と憲法（第36条） 死刑制度を合憲とした、最高裁の判例（昭23.3.12）について。				
第10回：司法権の独立（第76条） 三権分立（国会・内閣・司法）のうち、ここで司法の役割について。				
第11回：違憲立法審査権（第81条） 違憲判決を受けた法令の効力は、その当該事件に値する限り、違憲無効性が確定する。				
第12回：裁判の公開（第82条） 公開法廷の意味するところ。				
第13回：地方自治（第92条～第96条） 住民自治と団体自治について。				
第14回：最高法規（第98条） 憲法は、国家の最も高い地位にある法規であることを宣言したものである。				
第15回：まとめ 憲法というものが、いかに私たちの生活に密接なものであるかの認識。				
定期試験				
テキスト				
『憲法要説』 齋藤静敬著（成文堂）				
参考書・参考資料等				
学生に対する評価				
期末に実施する定期試験（80％）、レポート（10％）、小テスト（10％）				

授業科目名： 体育実技Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 斎藤雅美
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標				
①トレーニングの方法を習得できているか。				
②基礎体力を向上する方法を習得できているか。				
③ステップを習得できているか。				
授業の概要				
・ 音楽に合わせて身体を動かすことの楽しさを感じる。				
・ 自分の体ひとつで出来る（自体重トレーニング・体幹トレーニング）で基礎体力を向上させる。				
・ 柔軟性の向上を目指したストレッチ				
・ 誰にでも出来るリズム体操				
→かんたんな振り付けのダンス（ダンスは難しいと思っている人もリズム体操レベルから）				
・ 球技は、バスケットボール、バレーボール、ドッジボール、バドミントン、卓球 等から選んで行います。				
授業計画				
第1回：自己紹介 ストレッチ①				
第2回：ストレッチ② 自体重トレーニング＋体幹				
第3回：球技①				
第4回：ストレッチ③ 自体重トレーニング＋体幹				
第5回：球技②				
第6回：ストレッチ④ 自体重トレーニング＋体幹				
第7回：ストレッチ⑤ 自体重トレーニング＋体幹				
第8回：球技③				
第9回：ダンスのリズム取り ～かんたんステップ 練習①				
第10回：ダンスのリズム取り ～かんたんステップ 練習②				
第11回：かんたんな振り付けで Let's DANCE①				
第12回：かんたんな振り付けで Let's DANCE②				
第13回：かんたんな振り付けで Let's DANCE③				
第14回：かんたんな振り付けで Let's DANCE④				
第15回：グループ分けして踊ってみよう！				
定期試験は実施しない。				
テキスト				
参考書・参考資料等				
運動着（目的にあった伸縮の出来る服装であること。）				
運動靴（体育館用のもの。外履きとは兼用しないこと。）				
運動着・運動靴は、忘れずに必ず持参すること。				
学生に対する評価				
平常点（80％）、実技試験（20％）				

授業科目名： 体育実技Ⅱ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 斎藤雅美
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標				
①トレーニングの方法を習得できているか。				
②基礎体力を向上する方法を習得できているか。				
③ステップを習得できているか。				
授業の概要				
自分はカラダがカタイ!!と思っている人はいますか？人間は生まれたときはとても柔らかいです。				
この時間で“今”よりも柔軟なカラダになりましょう。				
テニスボールを使って筋膜リリースを行い、それからストレッチをしていきます。同時に体幹トレーニング等を行い、基礎体力を向上させます。				
・筋膜リリースは、足裏、中殿筋、腸腰筋、腹斜筋、脊柱起立筋、外側広筋、腹直筋、小胸筋の中から選んでほぐしていきます。				
・球技は、バスケットボール、バレーボール、ドッジボール、バドミントン、卓球 等から選んで行います。				
・かんたんエアロビクス（音楽に合わせて楽しくカラダを動かします）				
授業計画				
第1回：自己紹介 筋膜リリース&ストレッチ①				
第2回：筋膜リリース&ストレッチ② 体幹トレーニング				
第3回：球技①				
第4回：筋膜リリース&ストレッチ③ 体幹トレーニング				
第5回：筋膜リリース&ストレッチ④ 体幹トレーニング				
第6回：筋膜リリース&ストレッチ⑤ 体幹トレーニング				
第7回：球技②				
第8回：かんたんエアロビクス①				
第9回：かんたんエアロビクス②				
第10回：球技③				
第11回：かんたんエアロビクス③				
第12回：かんたんエアロビクス④				
第13回：球技④				
第14回：かんたんエアロビクス⑤				
第15回：球技⑤ グループに分かれて体幹とエアロビクス やってみよう！				
定期試験は実施しない。				
テキスト				
参考書・参考資料等				
運動着（目的にあった伸縮の出来る服装であること。）				
運動靴（体育館用のもの。外履きとは兼用しないこと。）				
運動着・運動靴は、忘れずに必ず持参すること。				
学生に対する評価				
平常点（80％）、実技試験（20％）				

授業科目名： 英語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 熱田恵美子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
①知識・理解：文法の学習、語彙力とリスニング力の形成により、実用的な英語運用能力の獲得を目指す。			
②技能：基本的な英語表現を学び、日常会話における英語コミュニケーション能力の向上を目指す。			
③態度・意欲：ペアワークやロールプレイを通して英語を使う楽しさを体験し、自信をもって英語で自分を表現することを目指す。			
授業の概要			
机上の英語ではなく、実際のコミュニケーションで使う実用英語を習得する。テキストを軸に、英語を「聞く」「話す」「読む」「書く」ことにより、日常生活やオフィスでよく使われる基本的な英語表現を学ぶ。また、基礎文法の学習、語彙力の形成、実用的な英語運用能力の獲得により、英語でのコミュニケーション能力の向上を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション Pleased to meet you.		<be動詞>	
第2回：Do you remember me?		<一般動詞（現在）>	
第3回：I spoke to Ms. Hayashi yesterday.		<一般動詞（過去）>	
第4回：When does the meeting start?		<疑問詞>	
第5回：Can you meet me at the airport?		<助動詞1>	
第6回：Feel free to ask me anytime.		<文の種類、命令文>	
第7回：I'm thinking about quitting my job.		<進行形>	
第8回：Review Test （第1回～第7回の講義内容）			
第9回：I'll give her your message.		<未来形>	
第10回：I haven't received the latest figures.		<現在完了形>	
第11回：The cafeteria is closed today.		<受動態>	
第12回：We expect higher sales in China.		<比較>	
第13回：I'd like to check in.		<助動詞2>	
第14回：How about going to the theater?		<動名詞>	
第15回：I like to travel a lot.		<to不定詞>	
定期試験			
テキスト			
『Let's Read Aloud & Learn English』（成美堂）			
参考書・参考資料等			
毎回ワークシートを配布。			
学生に対する評価			
授業への参加度・受講態度（20%）、小テスト・ペアワーク・課題（30%）、定期試験（50%）			

授業科目名： 英語Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 熱田恵美子 担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
①知識・理解：文法の学習、語彙力とリスニング力の形成により、実用的な英語運用能力の獲得を目指す。				
②技能：基本的な英語表現を学ぶとともに、企業が重視するTOEIC等の受験も視野に入れ、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。				
③態度・意欲：ペアワークやロールプレイを通して英語を使う楽しさを体験し、自信をもって英語で自分を表現することを目指す。				
授業の概要				
英語Ⅰを受講した学生のステップアップレッスン。机上の英語ではなく、実際のコミュニケーション活動で使う実用英語を習得する。オフィスを舞台にした対話やプレゼン等を聞き、ビジネス英語やプレゼンテーションの基本を学ぶとともに、英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を身につける。発話を重視し、英語によるコミュニケーション活動の楽しさを学ぶ。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション This is my first visit there.			＜現在形・過去形 1＞	
第2回：How do you like Bangkok?			＜現在形・過去形 2＞	
第3回：It's going well so far.			＜進行形・未来形＞	
第4回：Have they decided on the design yet?			＜現在進行形＞	
第5回：Could you take a look at them?			＜助動詞＞	
第6回：My flight was canceled.			＜受動態＞	
第7回：What do you want me to do?			＜不定詞＞	
第8回：Review Test（第1回～第7回までの講義内容）				
第9回：She knows marketing very well.			＜関係詞 1＞	
第10回：Thank you for coming to our interview.			＜動名詞＞	
第11回：The competition will be very strong.			＜形容詞・副詞＞	
第12回：This is where we hold meetings.			＜関係詞 2＞	
第13回：I'd like to talk about our latest model.			＜分詞＞	
第14回：You are much better than me.			＜比較＞	
第15回：If I were you, I wouldn't miss it.			＜仮定法＞	
定期試験				
テキスト				
『Let's Read Aloud More!』（成美堂）				
参考書・参考資料等				
毎回ワークシートを配布。				
学生に対する評価				
授業への参加度・受講態度（20％）、小テスト・ペアワーク・課題（30％）、定期試験（50％）				

授業科目名： フランス語		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 中根いずみ
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
①基本的な文法事項を習得する。				
②美しいフランス語の発音に親しみ、簡単な挨拶ができるようにする。				
③自己紹介をフランス語で行う。				
授業の概要				
フランス語はフランスだけでなく、ベルギー、スイス、カナダ、タヒチ、アフリカ諸国など50か国で使用されている。国連でも公用語であり、重要な国際語の1つである。そうしたフランス語は、美術、ファッション、料理といった様々な分野と切っても切れない関係にあり、多くの商品名や店舗名にも使われている。そのようなフランス語の基礎を知り、知識の引き出しの1つに加えてほしい。				
新しい外国語を学習する際、文法事項は必須。九九を覚えるように地道な努力を要する。				
授業計画				
第1回：フランス語とは、Alphabet				
第2回：発音、あいさつ				
第3回：名詞の性・数				
第4回：冠詞（不定冠詞・定冠詞・部分冠詞）				
第5回：数のかぞえ方				
第6回：動詞etre				
第7回：動詞avoir				
第8回：er動詞（第一群規則動詞）				
第9回：動詞aimer				
第10回：自己紹介				
第11回：否定文と疑問文				
第12回：形容詞				
第13回：動詞vouloirとpouvoir				
第14回：基本表現				
第15回：修得内容の確認				
定期試験				
テキスト				
『フランス語 初歩の初歩』 塚越敦子著（高橋書店）				
参考書・参考資料等				
適宜プリントを配布。				
学生に対する評価				
平常点（30％）、定期試験（70％）				

授業科目名： イタリア語		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 本多一郎
				担当形態：単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
知識：様々な場面に応じたイタリア語表現を覚える。				
①理解：イタリア語の特徴である動詞の活用、名詞の性別を知り、基本的な文法を理解する。				
②技能：イタリア語の発音（ローマ字読み）を練習し、基本的な読む力を養い、読んで意味を理解する。				
③態度・意欲：言語がツールであることを意識し、積極的に話す（使う）練習をする。				
授業の概要				
言語はコミュニケーションを図るツールであり、自分の意思、相手の意見、その他必要な情報を得るために用いるものである。まず、基本的な文法を知り、単語や文の意味を覚えることが求められる。さらにそれらを使う（話すというアウトプット）練習が必要である。使う場面を想像すること、実践的な会話練習をすることが重要なので、ワークシートやカードを用いて受動的ではなく能動的に話すことが中心となる。理解することだけでなく、イタリア語を使って対話できることが目標である。				
授業計画				
第1回：あいさつ・基本的な表現～名前／出身地				
第2回：調子を聞く・基本的な表現～クラスでの会話				
第3回：アルファベット・発音・綴り～注意すべき発音				
第4回：動詞（1）原形とその意味・買う／食べる／見る／行く				
第5回：補助動詞（1）行きたい＋場所（街と国）				
第6回：不定冠詞と名詞～男性名詞と女性名詞				
第7回：まとめ①				
第8回：動詞（2）～Mi piace～（好きなこと・好きな色を伝える）				
第9回：場面会話①ショッピング（ありますか？いくらですか？）				
第10回：場面会話②観光案内所（どのくらいかかりますか？＋数字）				
第11回：疑問詞を使った疑問文（どこですか？）（いつですか？）（何時ですか？）				
第12回：まとめ②				
第13回：副詞～時を表わす表現				
第14回：場面会話③レストランでの注文				
第15回：動詞（3）～fare～（したいことを伝える）				
定期試験				
テキスト				
随時プリントを配布。				
参考書・参考資料等				
学生に対する評価				
定期試験（筆記試験）（60％）、受講態度（20％）、小テスト（20％）				

授業科目名： I T 基礎 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 寺内久美子
		担当形態：単独	
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
①知識・理解：基本的なパソコン操作、【Word2016】の操作方法について説明できる。			
②技能：基本的なパソコン操作、【Word2016】操作ができる。			
③技能：レポートやビジネス文書等、見やすく分かりやすい資料を作成できる。			
④技能：文書の編集や、高度な文書を作成できる。			
⑤態度・意欲：学んだ機能を積極的に用いて課題解決することができる。			
授業の概要			
・【Word2016】という、文書の編集ソフトの基礎・基本について学びます。			
・【Word2016】とは、レポートや論文を書いたり、写真や絵を使った資料を作成・編集するソフトです。			
・学生生活でのレポートや論文、資料作成に必要不可欠な知識です。社会人になってからも、とても重要なスキルです。			
・授業ではあらかじめ、入力されたデータを用いて様々な文書を作成します。			
・簡単な操作から難しい操作へと、ゆっくり、段階的にステップアップしていきます。			
・【Word2016】の基本操作を、自分自身で使いこなせるようになるまで学びます。			
授業計画			
第1回：授業説明・授業アンケート			
第2回：第1章 Wordの基礎知識・第2章 文字の入力			
第3回：理解度確認テスト及び解説①			
第4回：第3章 文書の作成			
第5回：第4章 表の作成			
第6回：自由創作課題			
第7回：理解度確認テスト及び解説②			
第8回：第5章 文書の編集1			
第9回：第5章 文書の編集2			
第10回：自由創作課題			
第11回：第6章 表現力をアップする機能1			
第12回：第6章 表現力をアップする機能2			
第13回：第7章 便利な機能			
第14回：自由創作課題			
第15回：理解度確認テスト及び解説③			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
『よくわかる Microsoft Word 2016 基礎』（FOM出版）			
参考書・参考資料等			
その他適宜、課題プリントやデータ、補足プリントを配布する。			
学生に対する評価			
理解度確認テスト（50％）、毎時限の提出課題の完成度（30％）、課題に対する問題解決能力（20％）			

授業科目名： I T 基礎Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 寺内久美子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
①知識・理解：基本的なパソコン操作、【Excel2016】の操作方法について説明できる			
②技能：基本的なパソコン操作、【Excel2016】の操作ができる			
③技能：効率的にデータを編集することができる			
④技能：見やすく、説得力のある資料作成ができる			
⑤態度・意欲：学んだ機能を積極的に用いて課題解決することができる			
授業の概要			
・【Excel2016】という、表計算ソフトの基礎・基本について学びます。			
・【Excel2016】とは、計算やデータの集計、グラフの作成を行うソフトです。難しい数学の知識はほとんど必要ありません。			
・学生生活での、資料作成に大いに役立ちます。社会人になってからも、必要不可欠なスキルです。			
・授業ではあらかじめ、入力されたデータを用いて様々な課題を作成します。			
・簡単な操作から難しい操作へと、ゆっくり、段階的にステップアップしていきます。			
・【Excel2016】の基本操作を自分自身で使いこなせるようになるまで学びます。			
授業計画			
第1回：授業説明・授業アンケート			
第2回：第1章 Excelの基礎知識・第2章 データの入力			
第3回：理解度確認テスト及び解説①			
第4回：第3章 表の作成1			
第5回：第3章 表の作成2			
第6回：自由創作課題			
第7回：第4章 数式の入力			
第8回：第5章 複数シートの操作			
第9回：第6章 表の印刷			
第10回：理解度確認テスト及び解説②			
第11回：第7章 グラフの作成			
第12回：第8章 データベースの利用			
第13回：第9章 便利な機能			
第14回：自由創作課題			
第15回：理解度確認テスト及び解説③			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
『よくわかる Microsoft Excel 2016 基礎』（FOM出版）			
参考書・参考資料等			
その他適宜、課題プリントやデータ、補足プリントを配布する。			
学生に対する評価			
理解度確認テスト（50％）、毎時限の提出課題の完成度（30％）、課題に対する問題解決能力（20％）			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 渋谷英章
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：教育の本質、理念、歴史と思想を学び、教育をおこなう上での基本的な見方、考え方を学ぶ。			
到達目標：			
・ 教育とは何か、ヒトの発達の特徴をふまえて説明できる。 ・ 教育の理念や目標、歴史や主な思想について理解している。 ・ 家族、学校、社会との関係において教育を理解している。 ・ 近代学校制度の成立過程と現代社会における教育課題を理解している。			
授業の概要			
教職を目指すにあたり、教育の根本的な原理、教育の多様な側面、現在の学校教育の成立、学校の意味や社会的機能などを学び、教育に対する理解を深める。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス（講義の概要） 教育・学校のイメージ、人間の本質としての教育			
第 2 回：教育の意味 教育（education）と発達（development）、共同体での子育て、家庭教育・学校教育・社会教育			
第 3 回：西洋教育史（1）古代から近世			
第 4 回：西洋教育史（2）国民国家の成立と近代公教育の成立			
第 5 回：教育思想の歴史 ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ			
第 6 回：日本学校教育史（1）古代から近世			
第 7 回：日本学校教育史（2）日本の近代化と学校制度、大正期の新教育運動、終戦まで			
第 8 回：日本学校教育史（3）戦後の教育改革			
第 9 回：日本学校教育史（4）その後の展開			
第 1 0 回：教師の資質と役割			
第 1 1 回：授業づくり、学校づくりの様々な実践事例			
第 1 2 回：教育評価とは何か 教育目標との関係、年齢主義と課程主義・履修主義と習得主義			
第 1 3 回：社会教育と生涯学習			
第 1 4 回：教育への権利、「子どもの権利条約」と憲法・教育基本法			
第 1 5 回：現代社会の変化とこれからの教育			
定期試験			
テキスト			
『やさしい教育原理（第三版）』田嶋一他著（有斐閣）			

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

平常点（３０％）と定期試験（７０％）により評価する。平常点は授業への参加状況（質問・発表等）課題提出状況で総合的に判断する。

授業科目名： 教職概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 駒田郁夫、木村直人 担当形態：オムニバス
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：教職の意義及び教員の役割・職務内容等と教員としての適性				
・教員という職業を法的、制度的に理解することができる。				
・教員の役割や責務、職務の内容を確認し、教職の意義について考察を加えることができる。				
・現代社会で求められている教員像や教員の専門性について、チーム学校などの教育改革の動向も参照しながら考察を加えることができる。				
・教員という職業について、学校での仕事の内容や勤務状況を理解した上で、多面的に考えることができる。				
授業の概要				
教職を目指す学生が教員の基本的な職務を理解した上で、教職の意義や役割を自覚し、教職の専門性や現代社会において求められる教員像やチーム学校としての対応について考察する。				
授業計画				
第1回：教職の意義と教師の役割（担当：木村）				
第2回：教育とは何か：教育の理念と教員の役割（グループワーク）（担当：木村）				
第3回：学校とは何か：学校の役割（グループワーク）（担当：木村）				
第4回：教職に関する法規（教育基本法、学校教育法）（担当：木村）				
第5回：教員に求められる資質と能力（担当：木村）				
第6回：教員の使命と身分保障（担当：木村）				
第7回：教員の服務と勤務条件（教員の義務、懲戒処分と分限処分、勤務時間等）（担当：木村）				
第8回：教員の倫理性（体罰、ハラスメント、個人情報保護等）（担当：木村）				
第9回：教員の力量形成（教員研修、評価等）（担当：駒田）				
第10回：学校の組織と運営（学校運営とチーム学校、学校評価、危機管理）（担当：駒田）				
第11回：教員の日常的な仕事（教員の仕事と日課、保護者対応）（担当：駒田）				
第12回：生徒の心理と行動、生徒理解、問題行動と社会規範（担当：駒田）				
第13回：教科指導の計画と評価、学習指導案等（担当：駒田）				
第14回：学習指導要領の改訂とその時代背景（担当：木村）				
第15回：教員の苦悩と喜び、理想の教員像と教員としての適性（担当：木村）				
定期試験				

テキスト

必要に応じて資料プリントを配付する。

参考書・参考資料等

教職論－教職につくための基礎・基本－ 佐藤 徹編著（東海大学出版部）

学生に対する評価

試験（５０％）、小レポート・提出物（３０％）、
授業内ディスカッションへの参加・貢献度（２０％）

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渋谷英章
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：教育制度を比較教育学的な視点から考える。			
到達目標：			
・日本の子ども・若者、学校の諸問題について理解する。 ・近年の教育改革の流れについて理解する。 ・諸外国の教育事情から日本の校育制度に浮いて理解する。 ・学校と地域との連携の意義と具体的な方法を理解する。 ・学校の安全管理について理解する。			
授業の概要			
普段はあまり意識しない教育の制度的側面の重要性は、他国と比較することで、より明確になる。近年の急激な世界規模での社会的変化は日本の教育制度にも大きな影響を与えている。教育改革にも関わる教育制度の基礎的知識及び教育制度と社会との関わりについて理解を深めていく。			
授業計画			
第1回：近代公教育と学校制度			
第2回：今日の日本の子ども、学校をめぐる問題			
第3回：近年の家族、子ども・若者の変貌			
第4回：文科省の教育政策の方向性			
第5回：様々な教育改革の取り組み			
第6回：グループ・ディスカッション、全体での発表			
第7回：外国の教育事情①中国			
第8回：外国の教育事情②韓国・東南アジア			
第9回：外国の教育事情③インド			
第10回：外国の教育事情④欧米			
第11回：教育の国際化の日本の教育制度への影響			
第12回：地域との連携の意義・協働体制			
第13回：様々な地域連携の取り組み			
第14回：学校での事件・事故・災害と安全管理			

第15回：これからの教育

定期試験

テキスト

適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

参考図書は講義中に紹介する。

学生に対する評価

平常点（30％）と定期試験（70％）により評価する。平常点は授業への参加状況（質問・発表等）課題提出状況で総合的に判断する。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丸山純一、西谷健次 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ:生徒の心身の発達及び学習の過程を理解し、発達段階に応じた適切な指導ができる基礎とする。			
到達目標： ・ヒトの心身の発達の過程を理解している。 ・青年期を中心とする発達段階ごとの知能、情緒、社会性の特徴を理解する。 ・代表的な学習の理論について理解する。 ・教授法、教育測定・評価について理解する。 ・性格・（不）適応の特徴について理解する。 ・学級集団の特徴について理解する。			
授業の概要			
教育の心理的側面について理解を深める。具体的には、教育心理学の主要な領域である発達、学習、性格・適応、集団、教授法、測定・評価の基本を学ぶ。			
授業計画			
第1回：ヒトの発達の特徴（他の動物との比較）、主な発達段階説、初期発達、児童期・青年期の発達課題（丸山）			
第2回：記憶（1）短期記憶の特徴と機能、ワーキングメモリ（西谷）			
第3回：記憶（2）長期記憶の特徴と機能、忘却のメカニズム（干渉と検索失敗）、記憶の変容、有効な記憶方略（西谷）			
第4回：思考 洞察と試行錯誤、最近の認知心理学における問題解決研究（西谷）			
第5回：学習（1）条件づけ 強化と消去、般化と弁別、強化のスケジュール、シェイピング（西谷）			
第6回：学習（2）観察学習 モデリング、代理強化、社会的学習理論（西谷）			
第7回：動機づけ（1）期待価値モデル・統制感（ロッターのローカス・オブ・コントロール）（丸山）			
第8回：動機づけ（2）成功－失敗の原因帰属と動機づけ、内発的動機づけ、学習性無力感（丸山）			
第9回：学級集団の構造と機能、集団測定の方法（ソシオメトリック・テスト、ゲス・フー・テスト）（丸山）			
第10回：教授法 発見学習、有意味受容学習、プログラム学習、ジグソー学習（西谷）			
第11回：教育評価 相対評価と絶対評価・到達度評価、診断的評価・形成的評価・総括的評価、評価方法（丸山）			
第12回：発達（1）遺伝と環境 野生児研究と家系調査、双生児統制法（丸山）			
第13回：発達（2）発達障害 LD、ADHD、ASDなどの理解（西谷）			
第14回：知能（1）知能の構造と知能検査、知的障害（西谷）			
第15回：知能（2）ピアジェの認知発達理論（西谷）			

定期試験
テキスト 『やさしい教育心理学（第5版）』鎌原雅彦・竹綱誠一郎著（有斐閣）
参考書・参考資料等 適宜資料を配付する。
学生に対する評価 出席回数が講義回数の3分の2以上の者のみを成績評価の対象とする。 定期試験の成績（70％）と、授業時の発表・態度、小テスト（30％）を総合して評価する。

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山岡祥子、中村真理
			担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ：近年急速に進展しつつある特別支援教育の考え方、体制作り、方法の基礎について理解する。			
到達目標：			
・インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の理念・取り組みについて理解する。			
・さまざまな障害の分類や基本的特性について理解する。			
・特別支援教育の課程や支援方法を理解する。			
・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。			
授業の概要			
教職を目指す者として、近年の特別支援教育の見方、考え方について理解し、障害や多様なニーズについて知識を広げ、教育の場における具体的な支援の方法、体制について学ぶ。			
授業計画			
第1回：特別支援教育について（担当：中村）			
第2回：障害、病とその治療・ケアの歴史（担当：中村）			
第3回：さまざまな障害の理解と指導・支援①視覚障害、聴覚障害（担当：中村）			
第4回：さまざまな障害の理解と指導・支援②肢体不自由、病弱・虚弱、重複障害（担当：中村）			
第5回：さまざまな障害の理解と指導・支援③言語障害、知的障害（担当：中村）			
第6回：さまざまな障害の理解と指導・支援④発達障害（担当：中村）			
第7回：発達障害の検査（知能検査・発達検査等）（担当：山岡）			
第8回：アセスメントから個別教育プログラムの作成へ（担当：山岡）			
第9回：発達障害児・者のための教室環境の整備、授業の工夫（担当：山岡）			
第10回：通級による指導及び自立活動の支援体制（担当：山岡）			
第11回：保護者との関係（担当：山岡）			
第12回：専門家・専門機関との連携（担当：山岡）			
第13回：進学支援・就労支援（担当：山岡）			
第14回：障害はないが特別な教育ニーズを抱える子どもたち（担当：山岡）			
第15回：多様性を認める共生社会に向けて（担当：山岡）			
定期試験は実施しない。			

テキスト

『初めての特別支援教育（改訂版）』（柘植雅義他編著）有斐閣

参考書・参考資料等

適宜資料を配付する。

学生に対する評価

- ・ 平常点（30％）
- ・ 学期末レポート（70％）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川原 健太郎
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】本授業のテーマでは系統主義や経験主義、生活と科学の結合、「新学力」や「生きる力」、「活用能力」などの教育課程に関するさまざまな理論、歴史、近年の動向を取り扱う。さらに、学習指導要領の時代的変遷、最新の学習指導要領に即した学校教師の教授内容を学ぶ。			
【到達目標】学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解することを到達目標とする。			
授業の概要			
教育課程の概要を説明し、教育課程やカリキュラムをめぐる理論や歴史、近年の動向、さらには学習指導要領の概要、歴史や変遷について学ぶ。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、教育課程と教育の目的			
第2回：カリキュラム概念の範囲と射程-カリキュラム、カリキュラム・マネジメントとは何か			
第3回：カリキュラムと教育目標			
第4回：内容選択の基準			
第5回：カリキュラムの編成原理			
第6回：子どもの発達とカリキュラム			
第7回：学習指導要領と教科書			
第8回：カリキュラムの社会学、カリキュラムを支える教育環境			
第9回：カリキュラムと評価			
第10回：カリキュラムの履修スタイル			
第11回：教科のカリキュラム、教科外のカリキュラム			
第12回：近年のカリキュラム改革の動向			
第13回：日本の教育課程改革の歴史			
第14回：学習指導要領の変遷			
第15回：総復習とレポート提出			
定期試験は実施しない。			
テキスト			

『よくわかる教育課程[第2版]』 田中耕治編（ミネルヴァ書房、2018）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年改訂、文部科学省）

中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年改訂、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 総則編（平成 30 年改訂、文部科学省）

上記に加えて、自身が取得を希望する校種・教科の学習指導要領を参照すること。

その他、随時指示する。

学生に対する評価

- ・ 平常点（30％）

- ・ 学期末レポート（70％）

授業科目名： 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 九津見 幸男 担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標				
総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための脂質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して広範な事象を多用な角度からとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識や技能を身に付ける。そのために総合的な学習の時間の教育課程上の置付けを理解し、その目標や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解すること。主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の指導計画の作成することの重要性や具体的な事例を理解すること。また、探求的な学習過程やそのための具体的な手立てを理解すること。総合的な学習の時間の生徒の学習状況に関する評価の方法、その留意点を理解すること。 特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。そのために特別活動の意義や目標、活動のねらい、内容、各活動の特質等を理解すること。特別活動の基本的な概念の知識や指導の在り方を理解すること。				
授業の概要				
総合的な学習の時間は、横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることを目標としている。教科とは異なり、授業実践上難しい科目の一つである。まず、総合的な学習の時間創設の趣旨や経緯の位置概説し、学校における授業実践例について学習する。 これらを踏まえ、総合的な学習の時間の教材研究や指導案作成を行う。これらの活動を通してさらに探求的な活動や内容を理解できるようにする。 特別活動は、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的				

実践的に取り組み互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、ホームルーム活動や生徒会活動等の各活動や学校行事の具体的な実践事例等を通して学習する。これらを踏まえ、特別活動の教材研究や指導案作成等を行う。

授業計画

第1回：「総合的な学習の時間」の目指すもの

第2回：全体計画とカリキュラム・マネジメント

第3回：単元の指導計画

第4回：指導の工夫

第5回：評価の在り方

第6回：実践的事例とその解説（地域や学校の特色に応じた課題）

第7回：実践的事例とその解説（国際理解）

第8回：実践的事例とその解説（日本文化―食と自然―）

第9回：「特別活動」の目指すもの

第10回：特別活動の教育活動全体における意義

第11回：指導計画と評価

第12回：ホームルーム活動の目標と内容

第13回：生徒会活動の目標と内容

第14回：学校行事の目標と内容

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

高等学校学習指導要領解説「総合的な探究の時間編」（平成30年告示）（文部科学省）

高等学校学習指導要領解説「特別活動編」（平成30年告示）（文部科学省）

参考書・参考資料等

「今 求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（文部科学省）

必要な時にその都度資料を配布する

学生に対する評価

授業中の取り組み状況及びレポートの内容等（40％）試験（60％）等で総合的に評価する。

授業科目名： 教育方法論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 駒田郁夫、九津見幸男 担当形態：オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：授業における教育方法と指導技術 ・教員として教壇に立つ前に知っておくべき授業の構成要素や教授・学習理論、教育に関する歴史等についての知識を習得することができる。 ・授業を行う上で必要となる適切な授業形式の選択や教材を選択する力を養うことができる。 ・授業の構成要素等にかかわる情報を収集するとともにその情報を整理し、プレゼンテーションソフトを使って分かりやすく発表することができる。				
授業の概要 授業における教育方法・技術について基礎的な考え方を理解し、授業がどのような視点から方法的に構成されていくものなのかを学習し習得する。				
授業計画 第1回：教育方法の基本的事項（担当：九津見） 第2回：授業の構成要素 ①－発問と質問の違い（担当：九津見） 第3回：授業の構成要素 ②－指示・説明・助言の方法（担当：九津見） 第4回：授業の構成要素 ③－板書・視聴覚機器・情報機器の教育的活用（担当：九津見） 第5回：授業の構成要素 ④－評価の在り方（担当：九津見） 第6回：カリキュラムと単元の構成－授業と学習指導要領、教育課程の関連性（担当：九津見） 第7回：情報機器の教育的活用：情報機器や教材の活用、ICT（担当：九津見） 第8回：授業設計における教材研究・教材開発（担当：駒田） 第9回：教育方法の計画と実践 ①－適切な教授法・教材（担当：駒田） 第10回：教育方法の計画と実践 ②－情報機器の活用（担当：駒田） 第11回：学習指導方法の歴史的変遷（担当：駒田） 第12回：学習指導方法の基本原則（担当：駒田） 第13回：現代における学習指導方法と形態（担当：九津見） 第14回：よりよい授業を求めて ①－協同学習で授業を創る（担当：九津見） 第15回：よりよい授業を求めて ②－協同学習で授業を磨く（担当：九津見）				
定期試験				
テキスト 必要に応じて資料プリントを配付する。				
参考書・参考資料等 高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 芸術編 文部科学省（教育図書） 教育方法学 佐藤 学（岩波書店）				
学生に対する評価 試験（50％）、授業内のプレゼンテーションやディスカッションへの貢献度（30％）、小レポート等の提出物（20％）				

授業科目名： ICT活用の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高山 裕一
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
GIGAスクール構想下における教育現場のICT活用について、授業や校務改善の視点から実践的に理解する。			
1. ICTを利用したメディアについてその特性を考え、教育の効果を高める活用をする。			
2. これからの社会で必要となるデータ分析や情報モラルなどを含めた情報活用能力の育成についての各教科等の位置づけや内容を理解する。			
3. プログラミング教育の目的を理解し、各教科等でのプログラミング的思考育成の方法を検討する。			
4. 学習者の1人1台端末を、表現の発信に重点をおいた教材について検討する。			
5. 校務において、教育研修の深化や文書整理等の効率化などの活用法を知り、身につける。			
授業の概要			
急激に発展している教育現場でのICT活用について、その効果や課題、GIGAスクール構想による1人1台端末を活用した授業改善、さらには校務へのICTの効率的な利用について、実践を通して学ぶ。			
授業計画			
第1回：【講義と演習】教育現場のICT活用の実態と、ICTを利用したメディアの特性			
・ 特別支援教育を含む現在の学校現場のICT機器の導入状況やGIGAスクールとしての授業の状況を理解する。			
・ メディアの特性をふまえたICT機器の利用について演習を通して理解する。			
第2回：【講義と演習】指導者用ICT機器を利用した授業の改善			
・ 指導者用デジタル教科書や大型提示装置の理解と使用方法を習得する。			
第3回：【講義と演習】校務におけるICT機器の効率的な利用			
・ 校務に使用されるアプリケーションの共通の使い方や成績処理の仕方について理解し、習得する。			
第4回：【講義と演習】プログラミング教育①			
・ 日本におけるプログラミング教育、主としてプログラミング的思考について知り、簡単なプログラムやロボット作りから、理解を深める。			

第5回：【講義と演習】プログラミング教育②

- ・ いろいろな教科におけるプログラミング教育の場について知り、プログラミング的思考を深める授業について検討する。

第6回：【講義と演習】1人1台端末の利用①

- ・ 1人1台端末について導入や授業での使用についての実態を知り、表現の発信装置としての可能性を探る。
- ・ これからの情報社会に起きる多様な問題について、その要因を知り解決方法について検討する。
- ・ 特別支援教育におけるICT活用事例について検討する。

第7回：【講義と演習】1人1台端末の利用②

- ・ 主体的・対話的で深い学びの授業改善の中での1人1台端末の効果的な活用について様々な教科等の授業の場をもとに多面的に検討し、実践を通して理解する。
- ・ 学習者用端末の使用によるデータの収集と分析について検討する。

第8回：【演習】まとめ

- ・ ICT機器を活用した授業について構想し、模擬授業を通してその効果を検討しながら、教育の中でのICTについて整理する。

テキスト

高等学校学習指導要領（平成30年7月告示）

参考書・参考資料等

授業に合わせて適宜プリントを配付する

学生に対する評価

授業の参加状況（毎時のリフレクション50%と演習の態度20%）と最終レポート30%において行う。

授業科目名： 生徒・進路指導		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丸山純一、木村直人、横山明子 担当形態：オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める		生徒指導の理論及び方法		
科目区分又は事項等		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：生徒指導・進路指導の意義を理解し、適切な指導法を身につける。 ・生徒指導・進路指導の内容と意義を説明できる。 ・不登校、いじめ、校内暴力などの実態と原因、対策について理解している。 ・今日の青年のキャリア発達上の問題を理解し、望ましい進路指導を実践できる。 ・生徒指導・進路指導の望ましい校内体制について理解している。				
授業の概要				
生徒指導は、生徒の人格のよりよき発達と学校生活の充実をめざすものであり、現在の生徒が抱える課題や実態を十分に理解した上で、生徒の自己実現や学校生活への適応をめざす生徒指導のあり方について考える。また、進路指導は、生徒自身がより良い進路を選択できる力を身につけられるよう指導・援助するものであり、そのための実践力を養うことを目的とする。				
授業計画				
第1回：生徒指導・進路指導の意義と課題（木村）				
第2回：生徒指導の原理と方法（木村）				
第3回：生徒・進路指導と教育課程、生徒・進路指導の組織と体制（木村）				
第4回：生徒指導のための基礎理論（1）適応の概念・欲求・動機づけ（丸山）				
第5回：生徒指導のための基礎理論（2）エリクソンの発達段階説と青年期の心理的特徴（丸山）				
第6回：非行の概要（木村）				
第7回：校内暴力、性非行（木村）				
第8回：不登校とその対応（丸山）				
第9回：いじめ（丸山）				
第10回：進路指導の諸活動（横山）				
第11回：現代青年のキャリアディベロップメント（横山）				
第12回：キャリアガイダンス（横山）				
第13回：進路指導の実際問題（横山）				
第14回：地域との連携を生かしたキャリア教育（横山）				
第15回：今日のキャリア教育の新しい動向（横山）				
定期試験				

テキスト
『生徒指導の心理と方法』 柳井修他編（ナカニシヤ出版） 生徒指導提要（平成22年度） 文部科学省（教育図書）
参考書・参考資料等
授業中に適宜プリントを配付する
学生に対する評価
出席回数が講義回数の3分の2以上の者のみを成績評価の対象とする。 定期試験（70％）、授業中の発表、小レポート・小テスト（30％）を総合する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のため 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丸山純一
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：教育相談の学校において果たす役割と、カウンセリング技法の初歩的理解			
到達目標：			
・教育相談の意義や役割、校内体制を理解している。 ・青年期の心理、生じやすい不適応や精神疾患について説明できる。 ・カウンセリングマインド、心理療法の主な学派・手法が説明でき、カウンセリングの初歩を体験的に理解している。 ・医療・福祉・心理等の専門家との連携を含めた校内の有効な教育相談体制のあり方について理解している。			
授業の概要			
青年期の心理特性をふまえ、学校での教育相談の意義と役割、カウンセリング技法の基本、心理検査の基礎について学ぶ。			
授業計画			
第1回：教育相談の意義と方法			
第2回：青年期の心身の不適応（1）心身症			
第3回：青年期の心身の不適応（2）摂食障害			
第4回：青年期の心身の不適応（3）神経症			
第5回：学校カウンセリング（1）学校カウンセリングの進め方			
第6回：学校カウンセリング（2）カウンセリングマインド			
第7回：心理療法（1）行動療法			
第8回：心理療法（2）クライエント中心療法			
第9回：心理療法（3）精神分析療法			
第10回：生徒理解の方法（1）面接法・作品法・観察法			
第11回：生徒理解の方法（2）心理検査の種類と特徴			
第12回：生徒理解の方法（3）心理検査実習			
第13回：健康教育（1）喫煙予防・薬物乱用予防教育の進め方			
第14回：健康教育（2）性の指導			
第15回：専門機関との連携を含む支援体制のあり方			

定期試験
テキスト 『生徒指導の心理と方法』 柳井修他編（ナカニシヤ出版）
参考書・参考資料等 授業中適宜指示する。
学生に対する評価 出席回数が講義回数の3分の2以上の者のみを成績評価の対象とする。 定期試験（70％）、授業中の発表、小レポート・小テスト（30％）を総合する。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（高）		単位数：2単位		担当教員名：丸山純一・駒田郁夫	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握（※1）	○	学校現場の意見聴取（※2）	○
受講者数 20人（1クラスで実施）					
教員の連携・協力体制 教職課程委員会（教職関係教員・実技系教員、事務局員で構成）を定期的に開催し、教職に関わる事項について学内全体の共通理解を深めるとともに、本講座の開始前に教科担当教員と教職担当教員との打合せの時間を設け、授業のテーマ、到達目標、授業内容等について確認する。また、教育実習を実施する系列校の管理職や教科担当教員との話し合いの場を設定し、大学と系列校との連携を図るようにする。					
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：これまでの教職課程の振り返りと教職に就くことへの自覚 ・これまでの教職課程の履修を履修カルテをもとに振り返り、教職の意義について深く理解できている。 ・教師として学級経営にあたって必要とされる十分なコミュニケーション能力を身につけている。 ・授業内容に応じた効果的なICTの活用法を理解できている。 ・特別支援についての知識・理解を持っている。 ・様々な分野の教材についての知識を持ち、ICTを活用（プロジェクター、プレゼンテーションソフトなど）した授業の学習指導案作成に活用できる。 ・円滑に模擬授業が行える。					
授業の概要 グループワーク、ロール・プレイング、事例研究、模擬授業、授業研究を通して、教壇に立つに足る授業の実践能力（ICTの活用力を含む）を身につける。					
授業計画 第1回 イントロダクション、履修カルテを用いたこれまでの教職課程履修の振り返り①集団討議（担当：丸山純一） 第2回 履修カルテを用いたこれまでの教職課程の振り返り②個人発表（担当：丸山純一） 第3回 カウンセリングを生かした授業：学級経営① 交流分野（担当：丸山純一） 第4回 カウンセリングを生かした授業：学級経営② 傾聴（担当：丸山純一） 第5回 カウンセリングを生かした授業：学級経営③ Q-U（担当：丸山純一） 第6回 地域連携（担当：丸山純一） 第7回 ICTを活用した教材研究、指導案の作成（担当：駒田郁夫） 第8回 模擬授業：平面にかかわる題材（ICTの活用及び実技指導を含む）及び授業研究の実施（担当：駒田郁夫） 第9回 模擬授業：立体にかかわる題材（ICTの活用及び実技指導を含む）及び授業研究の実施（担当：駒田郁夫） 第10回 模擬授業：機能にかかわる題材（ICTの活用及び実技指導を含む）及び授業研究の実施（担当：駒田郁夫） 第11回 模擬授業：鑑賞教育にかかわる題材（ICTの活用を含む）及び授業研究の実施（担当：駒田郁夫） 第12回 特別支援教育① 美術教育における特別支援の事例研究（担当：丸山純一） 第13回 特別支援教育② 特別支援教育のアイデア作り（グループワーク）（担当：丸山純一） 第14回 現職教員による最近の学校教育の現状と課題に関する講話、質疑応答（担当：丸山純一） 第15回 教師の責任、履修カルテの完成（担当：丸山純一）					
定期試験					
テキスト 適宜プリントを配付する。 中学校学習指導要領 解説 美術編 文部科学省（日本文教出版）					

高等学校学習指導要領 解説 芸術編 文部科学省（教育図書）
参考書・参考資料等
学生に対する評価 授業時の発表・態度、提出課題（30％）、模擬授業・指導案（30％） 定期試験（40％）